



防災がつなぐフィリピンと日本の教育現場 ～子どもの未来を守る仕組みづくりに向けて～



特定非営利活動法人SEEDS Asia
有馬 沙紀



SEEDS Asiaは災害に負けない持続可能な社会を目指し、
5つの「つながる」アプローチを軸に人づくり・まちづくりに取り組む防災専門NPOです。

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

52万人への防災啓発・教育活動、
3,100人の防災の担い手育成、
1.7万人への災害時の教育継続・
「よりよい復興」支援を実施

SEEDS Asiaが事務所を開設したアジアの
活動拠点ネットワークは10か国14か所。



SEEDS Asiaが大切にしている5つの「つながる」アプローチ



2021年5月18日、Messengerで入った連絡



Marigondon National high School conduct of Safety Inspections



How amazing you all are



Thanks just to let you know that we are religiously working

(活動写真)

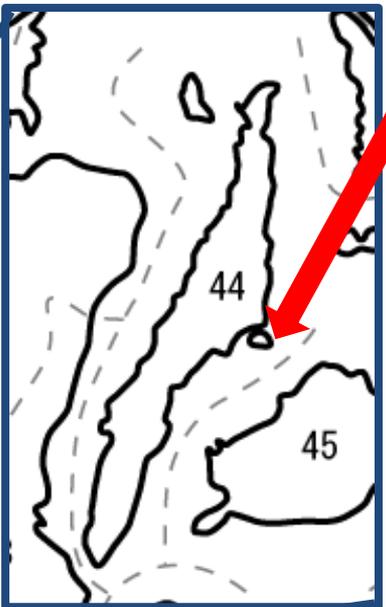
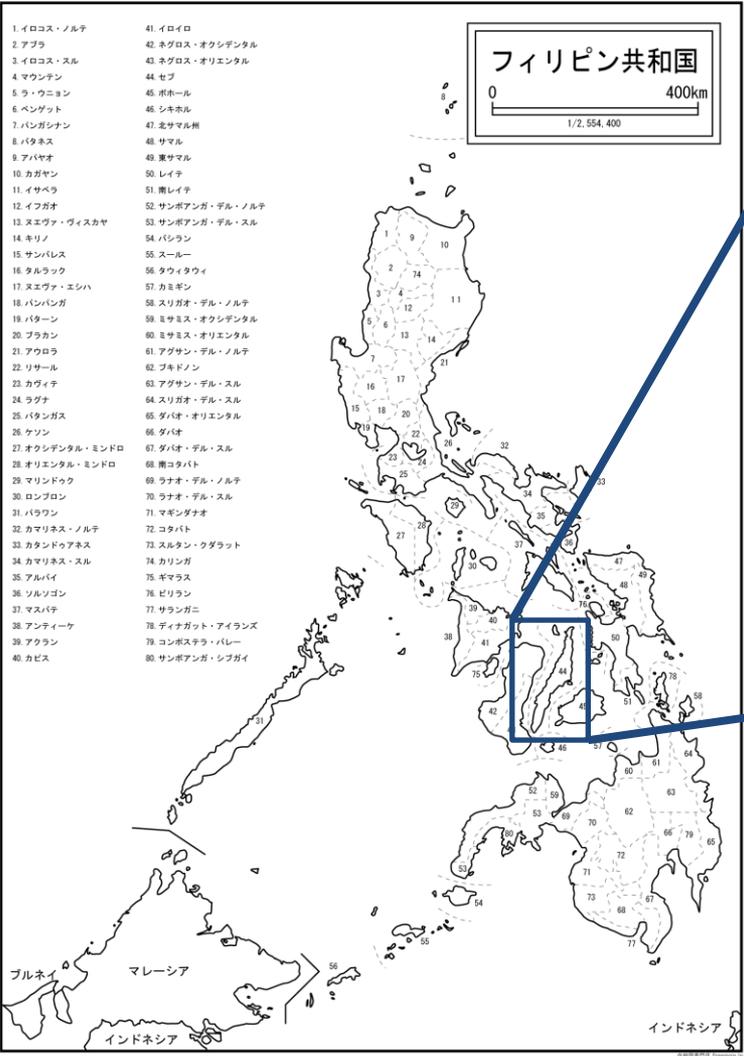
「マリゴンドン国立高校で安全点検をしているよ」

(私) 何と素晴らしいのでしょうか♡♡♡

ありがとう。私たちが今でも宗教のように防災に取り組んでいることを知ってもらいたくて

送り主はフィリピン・ラプラップ市の教育省事務所 防災担当職員

ラプラップ市とは・・・ **ここ**



SEEDS Asiaは2020年6月末に現地オペレーションを一旦停止。それなのになぜこの学校で安全点検がこの日に実施されたのか？

時を戻そう

2

0

1

3

台風ヨランダ／ハイエン

2013年11月3日に熱帯低気圧になった「ハイエン」は西に進み11月5日に台風となり、最大時間風速150kmの「スーパー台風」となり、フィリピン領域へ突入。フィリピン名「ヨランダ」¹⁾として11月8日にフィリピンを直撃¹⁾

- 現地名はA、B、Cの順番で付けられる。Yolandaは同年フィリピン領域に発生する24つ目の台風
死者・行方不明者7,000名以上²⁾



SEEDS Asiaは発災から4か月後に現地調査に入り、被災したのに支援が届いていない学校に通う子ども達の学習キット、教員用の教育キットを提供

- 1) Philippines Department of Health website <https://doh.gov.ph/Top-Health-Stories/Super-Typhoon-Yolanda>
- 2) Philippines National Disaster Risk Reduction and Management Council Situation Report re Effects of Typhoon Yoladna
[https://ndrrmc.gov.ph/attachments/article/1329/FINAL_REPORT_re_Effects_of_Typhoon_YOLANDA_\(HAIYAN\)_06-09NOV2013.pdf](https://ndrrmc.gov.ph/attachments/article/1329/FINAL_REPORT_re_Effects_of_Typhoon_YOLANDA_(HAIYAN)_06-09NOV2013.pdf)

台風ヨランダ／ハイエン

防災教育が徹底していれば起こらなかったかもしれない悲劇

「高潮」を理解せず避難しなかった住民

最も高潮被害が大きかったタクロバンで「高潮」に関する警報が出たが、一般の市民はその意味を理解しなかった→間違っている「津波」と言うべきだった、と指摘する専門家も¹⁾²⁾

Finding a Filipino word for storm surge: 'Daluyong' or 'humbak'?

by Ira Pedrasa, ABS-CBNnews.com

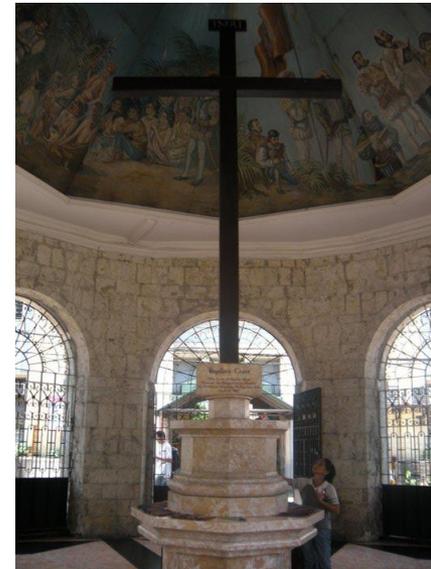
Posted at Nov 18 2013 08:41 PM | Updated as of Nov 19 2013 05:35 AM

MANILA - Not many people in the Philippines knew what a storm surge was before 'Yolanda' hit central Philippines. It was a new concept that did not arouse fear, unlike the word tsunami, which evokes images of the destruction in Japan in March 2011 and in countries affected by the 2004 Indian Ocean earthquake.

- 1) <https://www.devex.com/news/storm-surge-lost-in-translation-and-interpretation-82311>
- 2) <https://news.abs-cbn.com/focus/11/18/13/finding-filipino-word-storm-surge-daluyong-or-humbak>
- 3) Philippine Quarterly of Culture and Society Vol. 36, No. 4, SPECIAL ISSUE IN MEMORY OF FR. EUGENE VERSTRAELEN, SVD AND DR. MIMI TROSDAL (December 2008), pp. 191-242

「この地域には災害は起こらない」と信じた住民

同じく被害を受けたセブは、マゼランが初上陸した時に持ち込んだ幼いキリストの像が祀られている。そのせいか、「セブには災害は来ない」と信じている住民が多くいた³⁾



台風ヨランダ／ハイエン

では「防災教育が十分」とはどういう状況か？

当時発災から3年目が経とうとしていた東日本大震災被災地や、約20年の阪神・淡路大震災被災地が過去の教訓を生かしてどのように防災教育に取り組んでいるのかをSEEDS Asiaから紹介（教育省防災担当副次官とセブ州を管轄する第7地方事務所防災担当を日本に招へい）



兵庫県との協働事業
に向けた動き



主な学び

- Document what happened. Tell the story so everyone people will learn
- Involve students in recovery (clean up before school opening)
- Prepare materials on student-parent interaction on DRR
- Activities for beginning of school year
- Early warning system and drills
- Teacher support
- School Feeding programs
- Working with out-of-school youth
- Building the organization

兵庫県教育委員会の学校防災は何をきっかけに 始まったのか？ どの点を参考にできるか？

時を戻そう

1

9

9

5

阪神・淡路大震災

1995年1月17日5時46分、兵庫県南部（淡路島と神戸の間：明石海峡付近）を震源とする地震が発生¹⁾ 死者6,434名（9割以上が建物崩壊による圧死²⁾）



- 「関西には地震が少ない」と言われていたこともあり、住民は油断³⁾
- 冬場だったためガス暖房を使用していた人が多く、火災が多発
- まだ寝ている人が多くいる時間帯で即座に屋外に避難することができなかった
- 兵庫県内でピーク時に31万6,678人が1,153の施設に避難⁴⁾、そのうち「そのうちの6割以上が学校に避難した」⁵⁾

1) 国土地理院 <https://www.gsi.go.jp/REPORT/JIHO/vol83-2.html>

2) 内閣府 阪神・淡路大震災教訓情報資料集【02】人的被害

http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/hanshin_awaji/data/detail/1-1-2.html

3) 神戸市教育委員会 兵庫県南部自身データ集 <http://www2.kobe-c.ed.jp/shizen/strata/quake/katudnso/index.html>

4) 神戸新聞

5) 『阪神・淡路大震災の社会学』第2巻

6) 写真提供：神戸市

阪神・淡路大震災

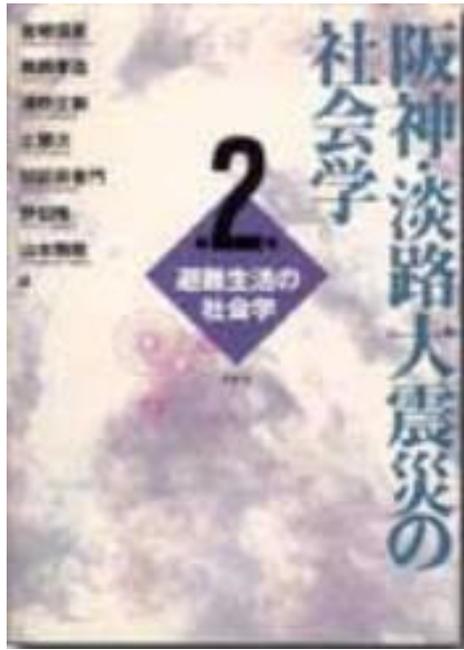
教育行政の教訓

兵庫県教育委員会データ	
亡くなった児童生徒	296名
保護者を亡くした児童生徒数	231名
被害のあった学校数	1,096校
避難所になった学校数	389校
学校への避難者数	180,227名

被害を受けた子どもへのケア・教育の再開どころか、避難所運営に追われる教職員たち

「食事をしたいとか、眠りたいとかいう人間の生理的な欲求をおぼえる暇もなく、ただ大声で指示を出し続けたあの日」

救助活動を要請されたり、棺桶をつくり線香やドライアイスを買ってきたりといった、じつにさまざまな仕事が必要となり、その多くが教職員の手によってなされた



『阪神・淡路大震災の社会学』 昭和堂、1999年発行
第2巻無料公開中

阪神・淡路大震災

教育行政の教訓

国際的な緊急時の教育に関するネットワーク(Inter-agency Network for Education in Emergencies: INEE)の基準として「学校施設のシェルター（避難所）としての使用は最低限に抑えること」とある。

子どもの教育の継続は様々な観点から重要！

阪神・淡路大震災を受け発災同年10月（地震から9か月後）兵庫県教育委員会は最大の被災地を抱える県としてその後の学校防災を位置付ける提言を発表

災害時の学校の役割と防災機能の強化

学校における防災教育

児童生徒の心のケア

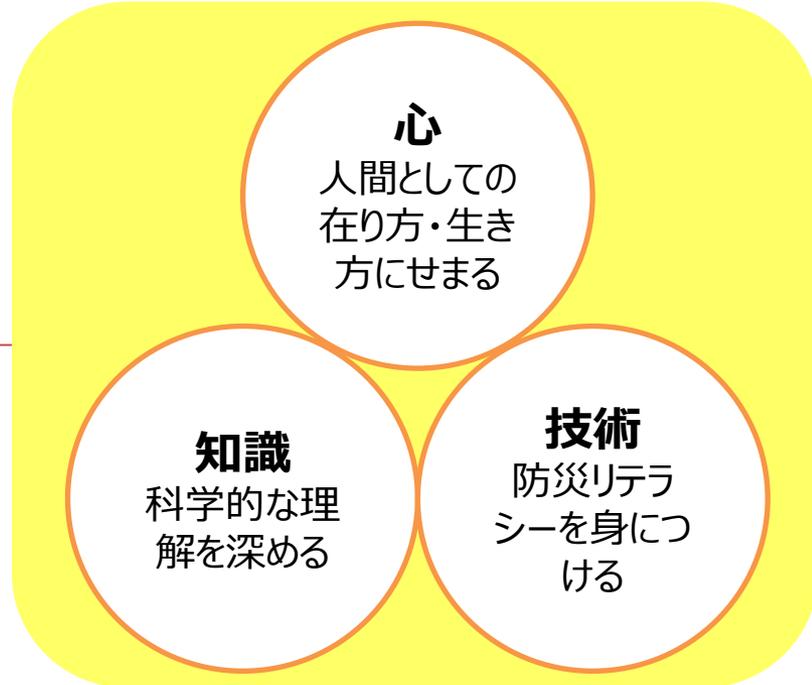
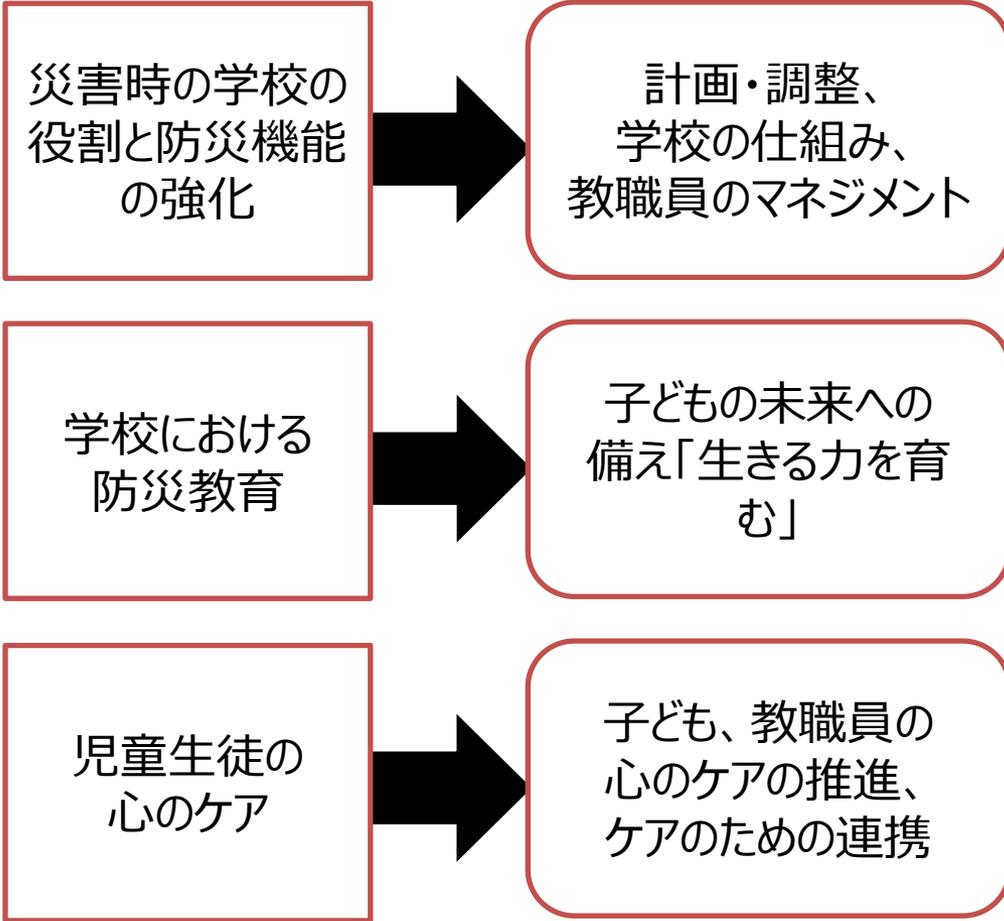
第	4	部
提言		

兵庫の教育の復興に向けて
平成7年10月 防災教育検討委員会



阪神・淡路大震災

教育行政の教訓：命の尊さ、助け合いの大切さ、ボランティアの大切さ



「兵庫の教育の復興に向けて」（平成7年10月） 及び 兵庫県教育委員会発表資料より

阪神・淡路大震災

教育行政の教訓：命の尊さ、助け合いの大切さ、ボランティアの大切さ

+

「防災教育に関する専門的な知識技術を習得した防災教育推進教員の養成」¹⁾

→震災の経験を活かし

平時の地域・学校防災の推進 及び 災害時の被災地の学校への派遣、助言

Emergency And Rescue Team by school staff of Hyogo (EARTH)の設立



派遣実績：

【国内】北海道有珠山噴火、鳥取県西部地震、宮城県北部地震、2004年台風23号被災地、新潟県中越地震、新潟県中越沖地震、2009年台風9号被災地、東日本大震災被災地、丹波市豪雨、熊本地震、鳥取県中部地震、大阪北部地震、西日本豪雨、北海道胆振東部地震 など

【国外】スマトラ沖地震被災地、中国四川省大地震、フィリピン台風ヨランダ、ネパール大地震

1) 兵庫県教育委員会文書（文書名不明） <https://www.hyogo-c.ed.jp/~kikaku-bo/pro/s0.pdf>

阪神・淡路大震災の後、その教訓はどのように世界に発信されたのか？

時を飛ばそう

2005

兵庫行動枠組 (Hyogo Framework for Action : HFA)

2005年、第2回世界防災会議を兵庫で開催。10年間の世界の防災計画として168国が採択した「兵庫行動枠組」は、政府や国際的組織、一般企業、学術界、メディア、そしてコミュニティのタスクや責任を明確に示した**初の**国際的な枠組。防災行動の実践に向けた異なるセクター間での協働を促した。¹⁾

この10年後、2015年には第3回世界防災会議にて「仙台防災枠組」が採択された。

HFAでは部門横断的課題として「コミュニティとボランティアの参画」、「能力開発と技術移転」が挙げられ、インドのNPOであるSustainable Environment and Ecological Development (SEEDS) という団体が

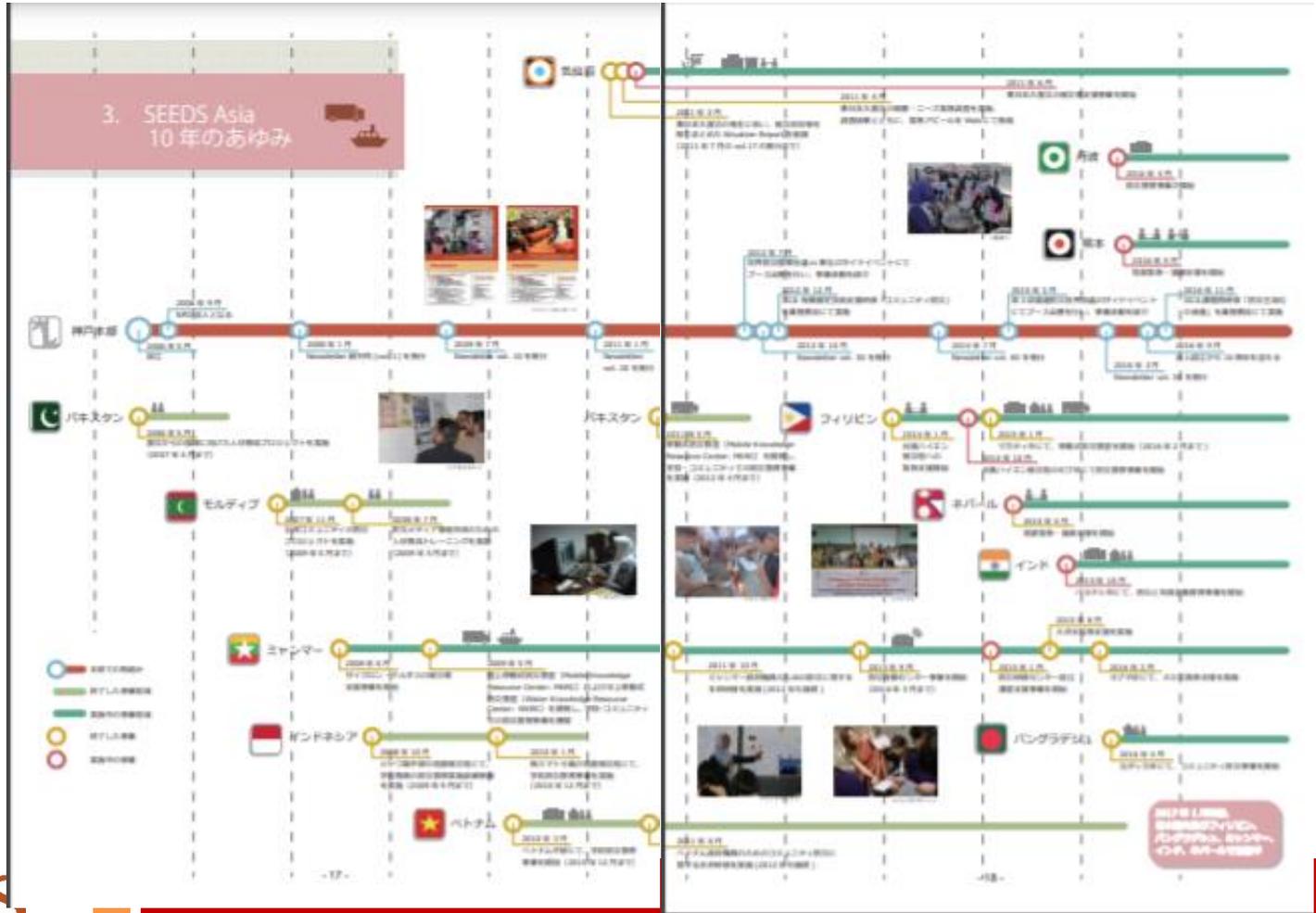
- 日本でNPOはボランティア団体扱いたが、NPOでも専門性を用いた事業ができるということを証明・普及させたい
- インドのNPOは国外でのオペレーションができない。その知見をアジア全体で広めるために日本でNPOを作ろう

というモチベーションをもってSEEDS Asia設立へ

1) 30 Innovations for Disaster Risk Reduction https://www.cwsjapan.org/wp-content/uploads/2019/04/30-Innovations-for-Disaster-Risk-Reduction_final.pdf

SEEDS Asia誕生

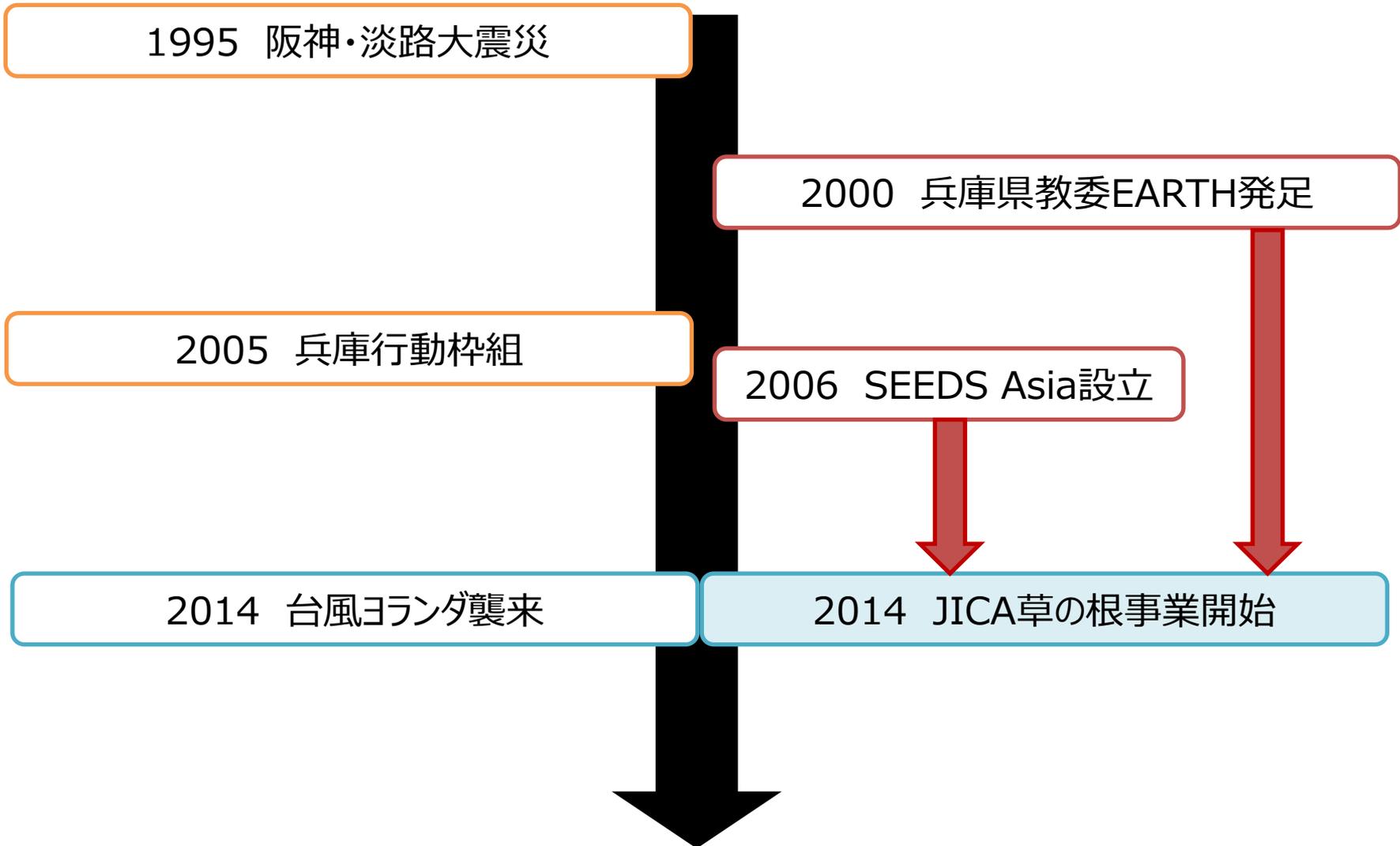
2006年、SEEDS（インド）の姉妹団体としてSEEDS Asia設立
今年15周年です！



1995年 阪神・淡路大震災、
2006年 SEEDS Asia設立、
そして2021年 教育省の学校安全点検のつながりは？
時を飛ばそう

2 0 1 4

2014年11月～ JICA草の根技術協力事業開始



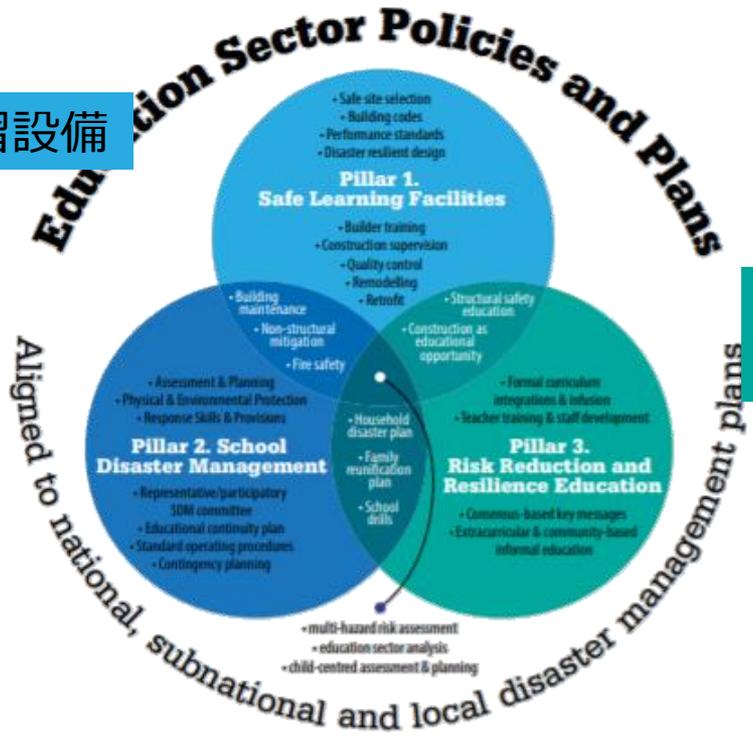
2014年11月～ JICA草の根技術協力事業開始 (枠組の話)

2015年の仙台防災枠組に向けて教育セクターがまとめた「**包括的学校安全**」という枠組

柱1：安全な学習設備

柱2：学校における災害
マネジメント
(学校防災管理)

柱3：リスク削減・レジリエンス
教育（防災教育）



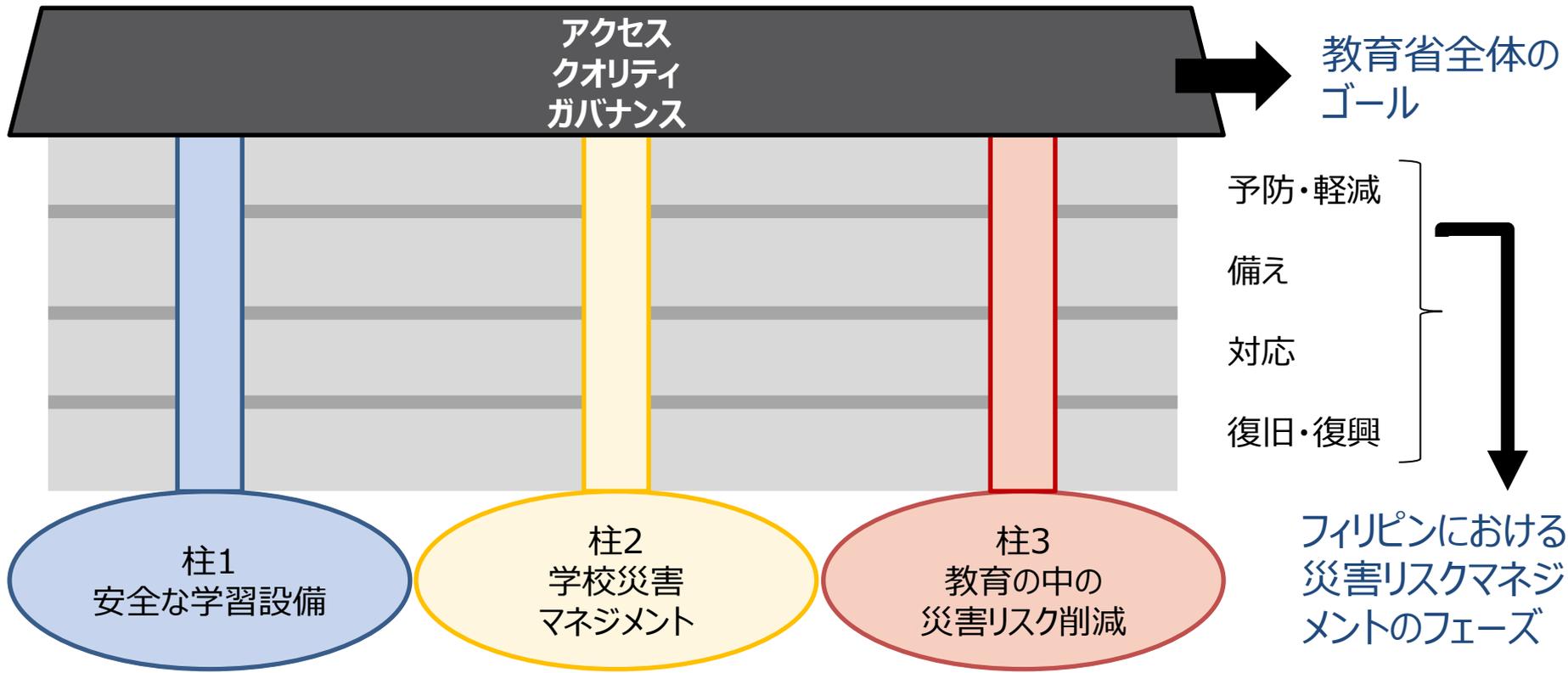
これら3つに包括的に取り組むことで学校安全を目指しましょう、というもの

画像はUnited Nations International Strategy for Disaster Reduction / Global Alliance for Disaster Risk Reduction & Resilience in the Education Sector (2015) Comprehensive School Safetyより



2014年11月～ JICA草の根技術協力事業開始 (枠組の話)

フィリピン教育省の「基礎教育における包括的災害リスクマネジメント枠組」
「包括的学校安全」を再解釈し、フィリピン全体の防災の概念と統合したもの



Philippines Department of Education, Department Order no. 37, S. 2015を参照に作成

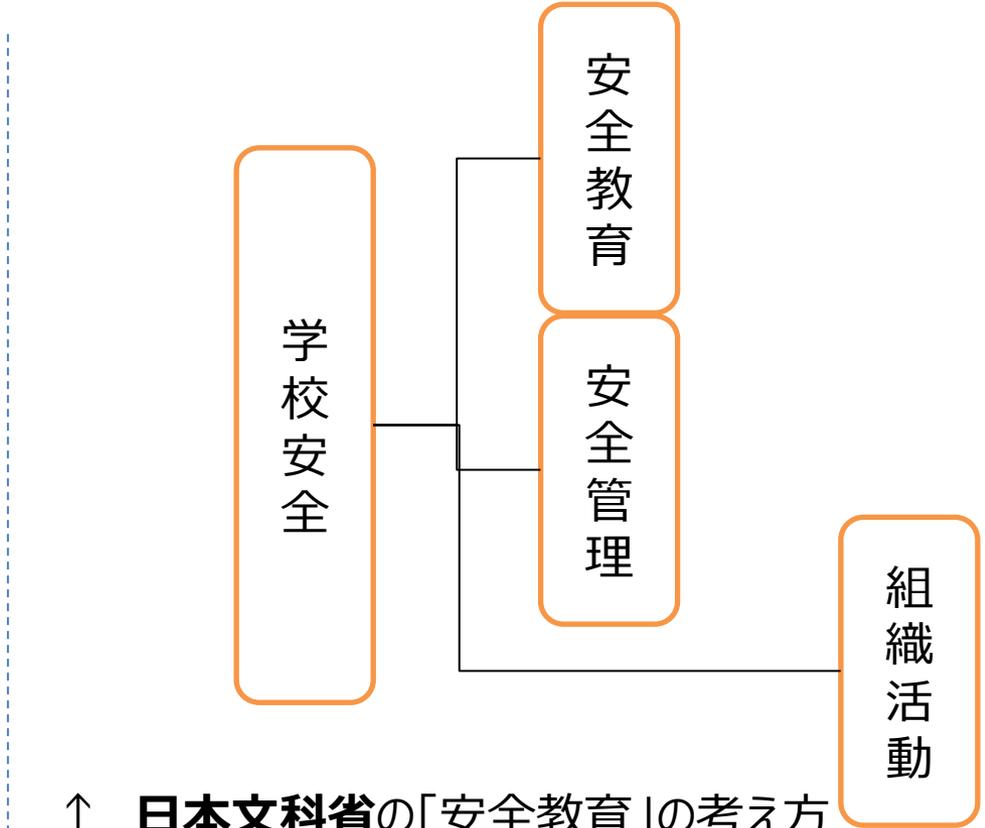
2014年11月～ JICA草の根技術協力事業開始 (梓組の話)

↓ 兵庫県教育委員会の考え方 (震災後の3つの取り組み強化分野)

災害時の学校の
役割と**防災機能**
の強化

学校における
防災教育

児童生徒の
心のケア



↑ 日本文科省の「安全教育」の考え方
(兵庫の例や宮城県の震災後の取り組みを参照)

文部科学省『『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育』参照

2014年11月～ JICA草の根技術協力事業開始 (枠組の話) まとめ

包括的学校安全枠組

フィリピン教育省

兵庫県教委

日本文科省

柱1：安全な学習設備



安全な学習設備

-

-

柱2：学校における災害マネジメント
(学校防災管理)



学校災害
マネジメント

災害時の学校の
役割と防災機能
の強化

安全管理

柱3：リスク削減・レジリエンス教育
(防災教育)



教育の中の
災害リスク削減

防災教育

安全教育

-

(心のケア)

組織活動

2014年11月～ JICA草の根技術協力事業開始 (まずは防災教育)

台風ヨランダの教訓：
「知っていれば助かった命があった」

+ 兵庫県教育委員会の（当時）19年の経験

+ SEEDS Asiaの国内外の防災国際協力の知見

+ JICA草の根事業【国際協力の意志のある日本のNGO/CSO、地方自治体、大学、民間企業等の団体が、これまでの活動を通じて蓄積した知見や経験に基づいて提案する国際協力活動を、JICAが提案団体に業務委託してJICAと団体の協力関係のもとに実施する共同事業】



災害の教訓を「語り継ぐ」ことを念頭に、正規科目の中での防災の主流化を目指す事業です。

① 防災教育を推進する多機関間ネットワークの確立



平時から防災教育の推進について話し合う「教育レジリエンステクニカルネットワーク」を設立

② 防災教育を担う教員の育成



③ 防災教育モデルの確立、実践



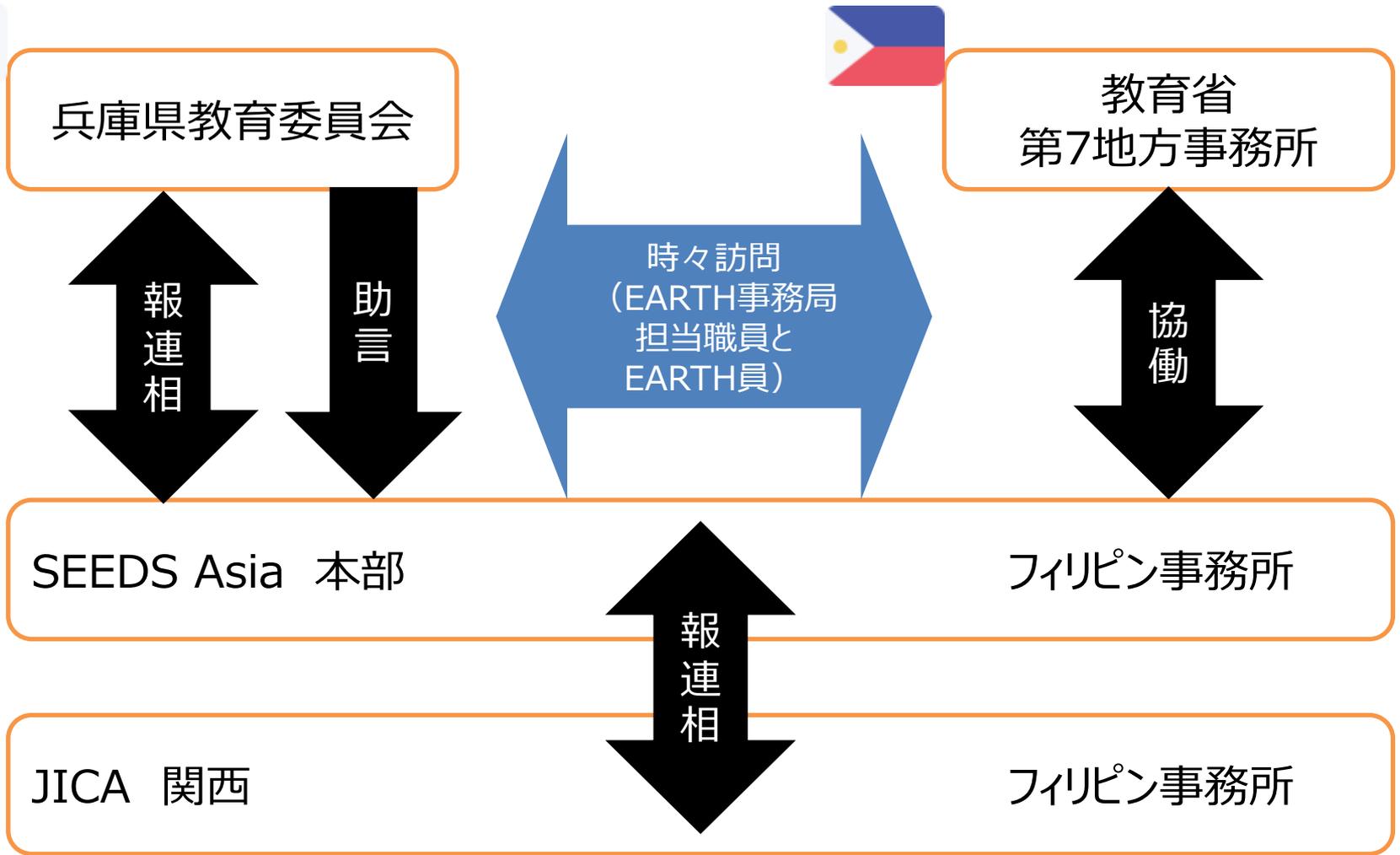
④ 確立されたモデルの他地域への共有

防災教育を展開するために必要な①教員研修、②指導案をガイドブックとしてまとめ、フィリピン全土に共有ガイドブックを活用した研修と授業が各地で展開中！



2014年11月～

JICA草の根技術協力事業開始（防災教育）



2014年11月～ JICA草の根技術協力事業開始（防災教育）

兵庫県教委からフィリピン教育省への主なメッセージ

- 過去の災害の語り継ぎが重要
- 子どもの発達段階に合わせて防災教育の内容を整理すること
- 学校教職員の取り組みとしての「管理」と子どもの理解を促す「教育」を両立させること
- 「日本はお金持ちだから防災ができる」は間違い！ お金のかからない取り組みこそ児童生徒の心を育て災害に強い人づくりにつながるということ



2014年11月～ JICA草の根技術協力事業開始（防災教育）

実は兵庫県が教える→フィリピンが教わるという構図だけではない

- フィリピンに派遣・学校への視察で防災教育実践への助言をして下さったEARTH員が、「フィリピンの授業スタイルはロールプレイなどを活用しており児童生徒のアクティブな授業への参加に感銘を受けた！」と、帰国後に自校でオリジナル外国語×防災授業を開始。
- その先生が異動になった後も、学校の主要な取り組みとして同様の試みが継続されています。



外 国 語

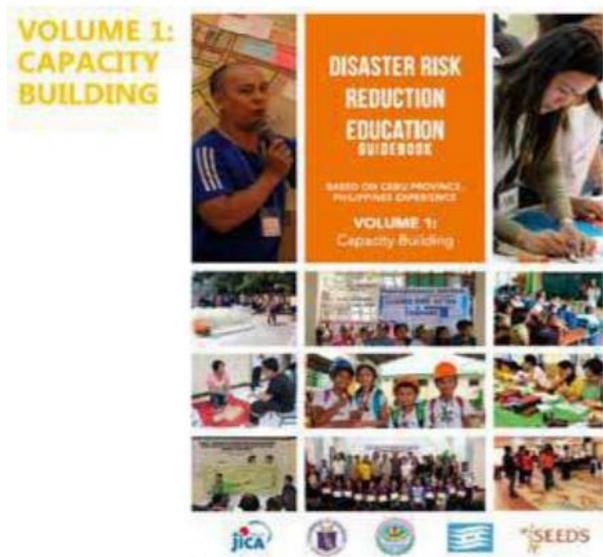
Lesson 6 What do you want?

～防災グッズでアルファベットを集めよう～

2014年11月～ JICA草の根技術協力事業開始（防災教育）

「SEEDSが子どもに教えているんですか？」とよく聞かれるが…

- SEEDS Asiaのアプローチは継続した防災に向けた「仕組みづくり」がメイン
- コアとなる人材を育成→その人材がさらに担い手教員を育成→教員が防災教育を実施
- 防災教育ガイドブックを作成（ボリューム1：防災教員研修を教育省内で実施するためのガイド、ボリューム2：正規科目への防災要素の融合事例）



2014年11月～ JICA草の根技術協力事業開始（防災教育）

防災教育の実施の道筋

「モデル地区」から選ばれたコア人材（とSEEDS）

- 日本の事例を参考に、各学年・各科目でのゴールを設定
- SEEDS Asiaの他事業地での防災教育事例を参考に教員研修実施
- 当時、教育省内で指導案の改訂が進んでいたことから、指導案作成に関する研修も同時進行

研修を受けた教員

- フィリピンの正規科目の中で防災教育に関連する単元を洗い出し、防災要素を盛り込んだ指導案を作成
- 通常授業での実施に加え、学校の課外活動（全校イベントやコンテストなど）で防災を取り入れる事例も

教育省地区事務所

- カリキュラム担当者が指導案を評価し、正当と見なされたものを実践・普及



コア人材が気仙沼市の学校視察で実際に目にした「非常食調理」を参照にした空き缶での調理授業

防災をテーマにしたアート、劇、作文、算数（非常用持ち出し袋にマッチを何本入れる？）、英語（災害の写真を見て生まれる感情を形容詞で説明する）、など

2017年4月～ JICA草の根技術 協力事業開始 (続いて学校防災管理)

児童生徒への教育は教員にとって本望な（楽しい）一方、マネジメント面で取り組む防災管理は多岐に亘りとても難しい！

兵庫県教育委員会のモデルを参照に

- 平時の安全点検
- 災害時の対応について多機関間の調整により事前に検討
- 上記2点についてレビューするための総合防災避難訓練



柱2：学校防災管理

期間：2017年4月～2020年3月（現行事業）

フィリピンでは学校の防災管理体制強化に向けた法整備やマニュアル化が進んでいます。その内容を踏まえて学校ごとの実践につなげることを目指す支援事業です。

① 学校を指導するチームの育成



日本の防災教育の仕組みについて紹介し、指導者育成



訪日研修で防災訓練の事例を視察

② 平時の安全点検を習慣化

EARTH同伴で安全点検を実施



安全点検後、各学校で学習環境の改善が進行中
(写真：避難経路の標示)



③ 非常時の災害対応体制の構築



各地域で学校と関係者の連携を促進する会議を実施



学校の災害特性や被害想定を念頭に置いた災害対応計画を策定

④ 学校と地域の合同防災訓練の実践

救助隊や保護者の参加によりけが人の搬送や児童の引き渡しも練習



具体的なシナリオに基づき子どもを含む関係者の動きを確認
(写真：浸水からの避難訓練)



⑤ モデルの全国的な共有

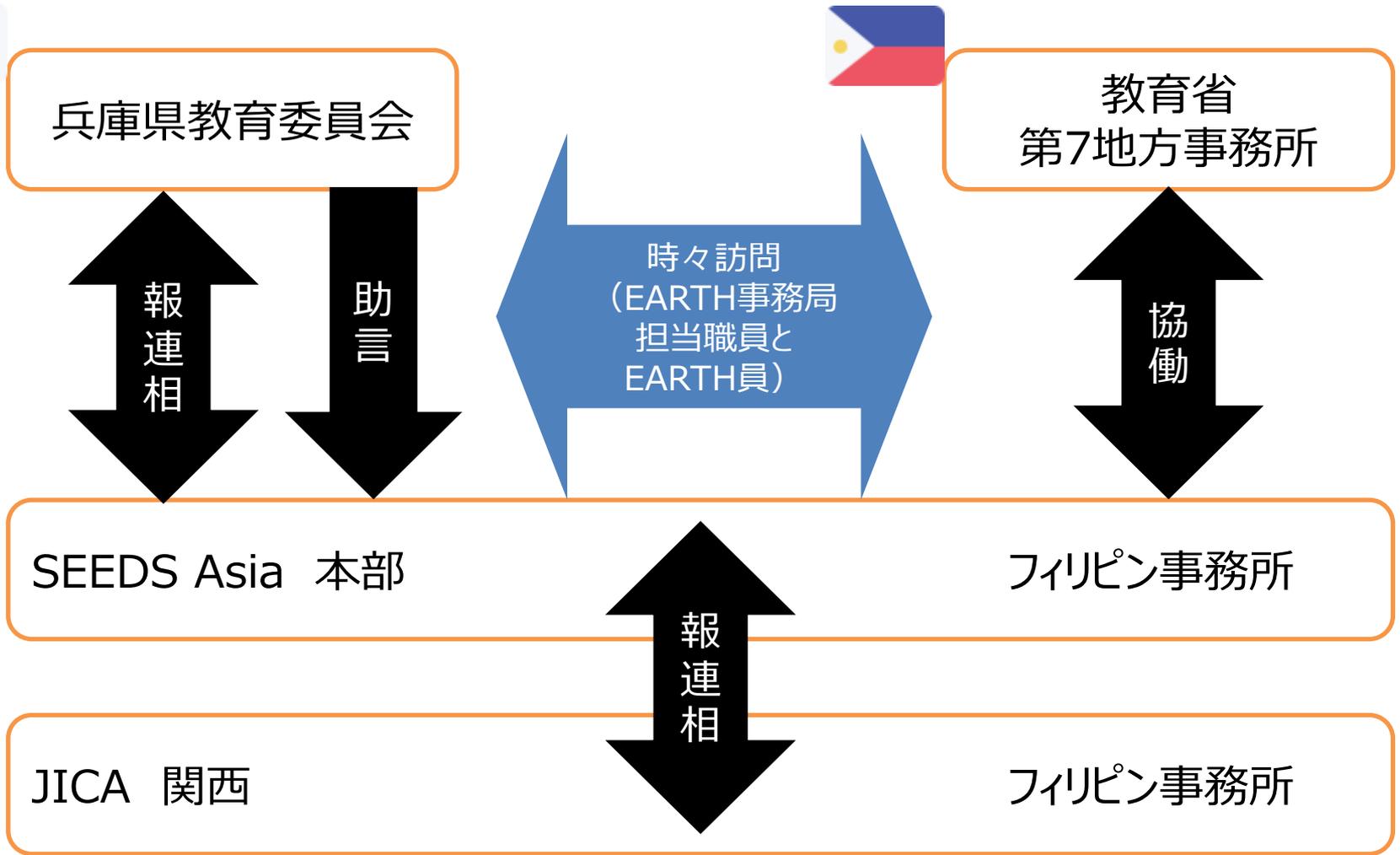


日本を含む各地域で開催されている優良事例を共有



フィリピン全土に知見を共有、ネットワークを展開

2017年4月～ JICA草の根技術協力事業開始 (続いて学校防災管理)



2017年4月～ JICA草の根技術協力事業開始 (続いて学校防災管理)

兵庫県教委からフィリピン教育省への主なメッセージ

- 「人づくり」ファースト！兵庫県教育委員会の宝は防災を担う人材
- 色んな立場の教職員がそれぞれの防災の取り組みを展開
- 「学校を避難所として使用しない」と突っぱねるより、事前協議を踏まえ発災時にスムーズに調整できるようにしてみてもは？
- 防災は華々しい楽しいことばかりではないけど、兵庫県も何とか毎年、少しずつ取り組みを続けてきた・・・



2017年4月～ JICA草の根技術協力事業開始 (続いて学校防災管理)

防災教育の実施の道筋

セブ州内の10の地区事務所から防災担当者 (とSEEDS)

- 学校防災管理の protocols を掲載した「学校防災管理チーム運営指針」作成
- 安全点検、災害対応に関するマニュアルづくりを各「パイロット校」で実施
- マニュアルを用いて安全点検及び防災訓練を実施

教員

- 平時用防災マニュアル作成→安全点検の実施、改善点の洗い出し、改善に向けた道筋検討を实践
- 災害時用防災マニュアル作成→10地区で10種類の災害種に関するシミュレーションをし、各機関（消防、警察、地方自治体など）と連携して防災訓練

教育省地区事務所

- 学校への支援、モニタリング
- (パイロット校以外への波及)



2017年4月～ JICA草の根技術協力事業開始 (続いて学校防災管理)

色々な状況で思い通りにいかない派遣・訪日研修

- 事業開始直後にフィリピンで**戒厳令発令**→緊迫した現地状況に鑑み兵庫県からの派遣を取りやめ
- 派遣予定日直前に**大阪北部地震発生**→EARTH員は国内の被災地学校支援もするので派遣人数を変更
- 政治的な理由で現地の教育省職員の異動待ちが長引き、訪日研修が大幅に遅延
- **新型コロナ感染拡大**により兵庫県からの派遣を取りやめ、SEEDS職員の出張も停止し今に至る…

一方、事業で関わったフィリピン教育省の方々の変容は…

- かたくなに「学校は避難所として使わないわ！それが国際基準よ！」と言っていた職員が、EARTH員の発表を聞いて「まあ他に避難所候補がない場所なら前向きに検討してもいいかも…」と柔和に

2017年4月～ JICA草の根技術協力事業開始 (続いて学校防災管理)

一方、事業で関わったフィリピン教育省の方々の変容は・・・

- 「事業に関わることで、学校は教育省本省ですら取り入れられていない安全点検を実践できるようになった」
- 「学校が防災管理に取り組む仕組みができたので、地区事務所の防災担当者としての業務量が減った」
- 「パイロット校以外で防災に取り組みたい学校を集めてチームを作ったので、パイロット校のモデルを自主的に横展開できる体制が整った」
- 「子どもの災害時引き渡しは実施するよう教育省本省の指示があるものの、この事業の前は訓練で実施することがなかったのでとても有効な取り組みとなった
- 「フィリピンは技術的には他の国に遅れをとっている部分もあるかもしれないが、この事業でおこなった取り組みは全ての学校で容易に取り入れることができる優れたものだ」

2017年4月～ JICA草の根技術協力事業開始 (続いて学校防災管理)

安全点検をするだけで終わりでなく、改善行動も



2017年4月～ JICA草の根技術協力事業開始 (続いて学校防災管理)

・・・というわけで、現在でも安全点検を始めとした取り組みが続いています

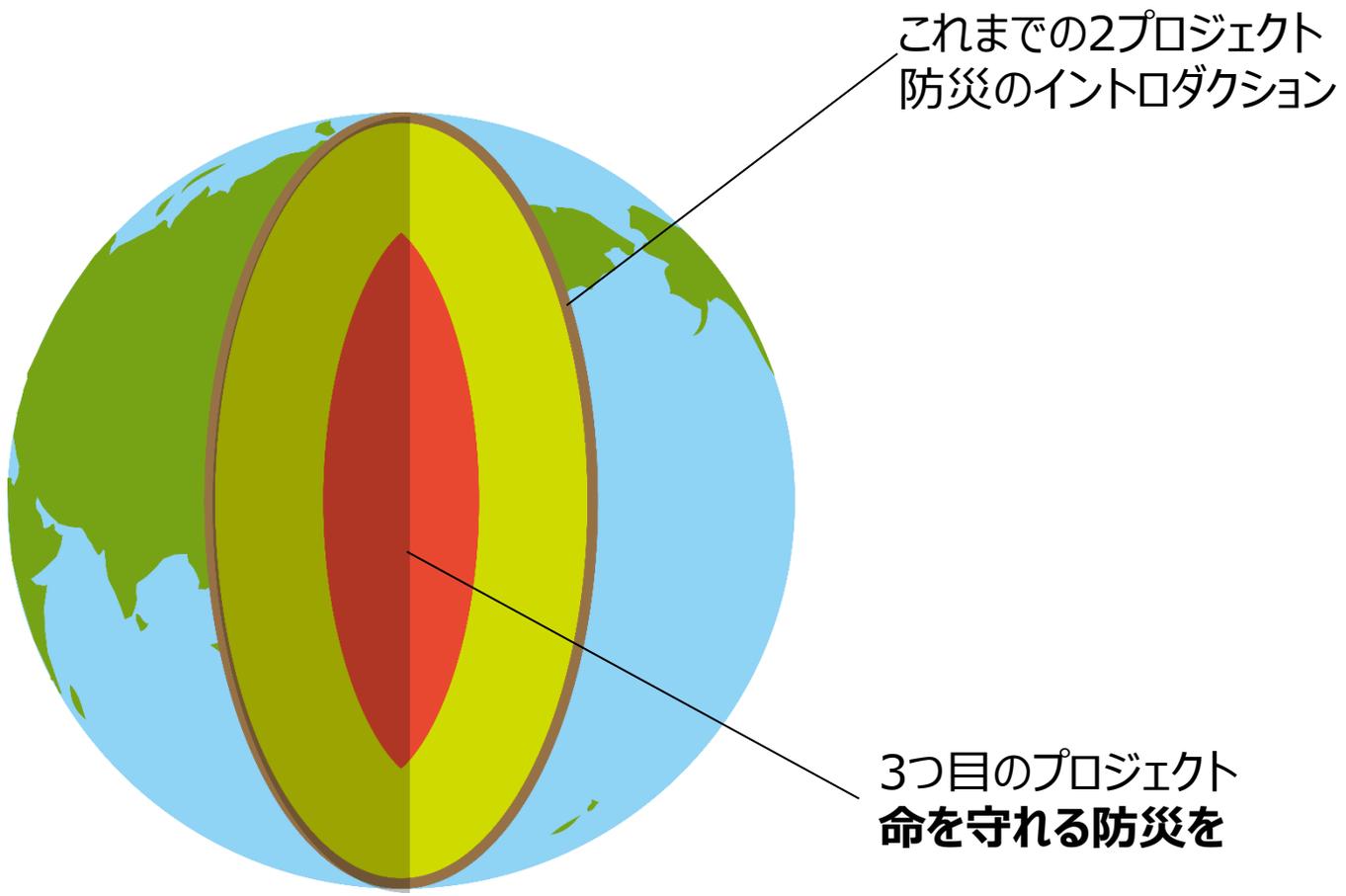
2 0 2 1

2017年4月～ JICA草の根技術協力事業開始 (続いて学校防災管理)

・・・というわけで、現在でも安全点検を始めとした取り組みが続いています



2021年度中に3つ目のプロジェクト開始を 目指しています！



応援よろしくお願ひ致します ☺



✉ saki.arima★seedsaia.org
(★→@)

☎ 078-766-9412

📠 078-766-9413

〒658-0072

神戸市東灘区岡本1-7-7-307